

一口法話

レンズ越しに見えるもの 副住職 西原龍哉

以前視聴者の夢を叶えるというテレビ番組で、26歳の女性が「6歳の時に46歳で亡くなった父に会いたい」という夢が実現されることになりました。その女性は「家を建て替えた時に出てきた古い8ミリフィルムを上映してほしい。自宅では上映できず諦めていたけれど、年月が経ち父との記憶が薄れる中、もう一度そこに映っているかもしれない父の姿が見たい」というのです。しかし、そのフィルムは日本では現像することができず、空を飛んでアメリカへ行き、3本のフィルムとなって彼女の元に届きました。

上映技師がスタンバイしてフィルムにおさめられた当時の映像がスクリーンに映し出されます。1本目のフィルムはジーっというフィルムが回る音だけが流れ映像が出てくることなく終了、2本目も同じ。緊張が高まる中、3本目のフィルムが始まると、スクリーンに白い映像が映し出され、椅子に乗りマイクを持って歌っているおさげ姿の小さな女の子が現れました。手には人形を抱えています。それは父が撮影するその女性の幼い頃の姿でした。「私の髪はいつもお父さんが結ってくれていたから、この時もそうかなあ」。自らの姿に女性の目からは自然と涙が溢れます。姿は映らずとも、彼女には自分の姿の向こうにビデオカメラを構え、娘の歌う姿を温かく見守っている父が見えたのです。姿を見ることはできなくても、そこにいらっしやることを感じることはできる。阿弥陀如来もそんな仏さまです。

浄土真宗は他力の仏道です。阿弥陀如来は自らの力では仏になることのできない私を見通し、あらゆる功德を込め、私の称える南無阿弥陀仏となつてあらわれてくださいます。南無阿弥陀仏の念仏の背後には、阿弥陀如来の慈悲が満ちています。昔の和上さまは、「声にすがたはなけれども 声のまんまが仏なり 仏は声のお六字と すがたをかえて我にくる」と詠まれました。女性は姿が見えなくとも父の愛を実感できたように、私に届いた南無阿弥陀仏の念仏に阿弥陀如来の慈悲が実感されるのです。慈悲に包まれ念仏申す私の人生が往生浄土の歩みであることを思う時、よろこびとともに身が引き締まる思いがわいてきます。

(築地本願寺「インターネットで3分法話」より)



今月の行事予定

2023年 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1		2	3	4 10:00納骨堂合同参拝 13:30グランドゴルフ
5 7:00日曜礼拝 ●	6	7	8	9	10	11
12 7:00日曜礼拝 ●	13	14	15 松戸市の子供の居場所作り活動です	16	17	18 13:30グランドゴルフ
19 7:00日曜礼拝 ●	20	21 春分の日 10:30やすらぎ堂春法要 13:30天真寺春彼岸法要 ●	22 駄菓子屋カフェくるくる (11:00~17:00・駐車場)	23	24	25
26 7:00日曜礼拝 ●	27	28 【講師】中村啓誠師(広島)	29	30	31	

● 印のある行事は オンライン生配信いたします
 → <http://www.koumyou.net/tenshin>

＜来月の予定＞ 4月20日 13:30法話会

天ちゃんの一言



- マスク着用についてのごお願い
コロナ対策のマスク着用は3/13より個人判断となりますが、お寺は人が集まる場であり高齢者も多いため、引き続きマスク着用をお願いいたします。
- 喜んでいただけた阿弥陀さまのお下がり
1月の法話会でお寺でついた正月供餅を参拝の皆さんにお分けしました。
- ご報告 HPリニューアル&オンライン配信用ライブカメラを新しくしました
ホームページは見やすく、オンライン配信画像はきれいになりました。
- 仏事のご相談、お墓のお悩みはお寺までお気軽にどうぞ
天真寺が管理する「永代合葬墓」があります
★「やすらぎ堂」(松戸大町やすらぎパーク内) 管理費なし
空きが1区画あります。現在門信徒のみの申込優先期間です。
墓地ご希望の方はどうぞお早めにお寺までお声かけください。
★「あんのん堂」(親鸞聖人のご廟所・京都大谷本廟内) 管理費なし
★ 一時預かり「納骨堂」(天真寺2F) 年間管理費 1万2千円
- 天真寺ホームページで住職、副住職のブログを連載しています
住職のブログ「住職の独り言」 blog.goo.ne.jp/ranman_kn
副住職のブログ「天真寺通信」 tenshin.or.jp/

入会随時募集
門信徒会
に入りませんか



お寺のお仲間になって、一緒にお参りしませんか。仏法を聞き自らを見つめる時間は、人生にとって大切なものです。

毎月、寺報と仏教雑誌を送付します。どなたさまもご入会お待ちしております。

＜年会費＞
一戸：3千円

＜ゆうちょ払込先＞
天真寺門信徒会
00130-6-567186

お寺の掲示板の言葉



鬼は外
どこにおるのか 探しおり
豆まくべきは 我が胸のうち

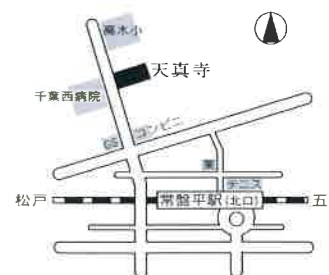


浄土真宗
本願寺派

天真寺

〒270-2251
千葉県松戸市金ヶ作106番地
TEL 047-389-0808
FAX 047-389-0809

www.tenshin.or.jp



オンライン
配信あり

春彼岸法要

一緒に仏さまのお話しを聞きましょう



【日時】 3月21日(火・春分の日) 13:30

【講師】 中村 啓誠 師 (本願寺派布教使、広島市光乗寺衆徒、伝道院講師)
一般家庭から29歳の時、「社会に向いていなくて、僧侶になりました」と語られる先生、興味深いお話が楽しみです。特技はダイエットとか。ぜひ一緒にお聴聞しましょう。



【場所】 天真寺本堂

★ オンラインで見られます → <http://www.koumyou.net/tenshin>

どなた様もご自由にご参加いただけますので、ぜひお参りください。茶話会は引き続き中止とさせていただきますことご理解ください。

オンライン参加
はこちらから

やすらぎ堂 春法要のご案内

～大町やすらぎパーク内天真寺永代合葬墓～



【日時】 3月21日(火・春分の日) 10時半～11時

【場所】 大町やすらぎパーク「やすらぎ堂」前
(松戸市串崎新田120-3 北総線大町駅徒歩3分)

やすらぎ堂、大町やすらぎパークにご縁のある方、どなたでも参加可能です。ぜひ一緒にお参りいたしましょう。当日合葬墓前にお集まりください。

住職の独り言

■ トルコ地震 (2/14)

トルコ南部のシリア国境近くで6日発生した大地震は、10日時点で確認された両国の死者が3万4千人を超え日増しに増えています。2011年に起きた東日本大震災の死者・行方不明者約2万2千人を大幅に上回っており、単純に比較はできませんが、東日本大震災と比べてもどれだけ甚大な被害であるか実感します。日々報道される惨状に言葉を失いますが、せめて今、私にできることを考えて行いたいと思います。



■ 幸せ (2/14)

どんな悲しみにも それにふさわしい深い幸せがきっとある。

■ 岸壁の母 (1/31)

友人のお寺が京都府舞鶴市にあります。度々行っても周辺を観光したことがなかったため、今回「舞鶴引揚記念館」を目的に訪れました。昭和20年の終戦時660万人以上が海外に残され、舞鶴港は13年間引揚港としての役目を果たしました。戦地から帰らぬ家族を待つ女性は「岸壁の母」と呼ばれ、昭和29年には流行曲となりました。

(歌詞) 母は来ました 今日も来た
この岸壁に 今日も来た
とどかぬ願いと 知りながら
もしやもしやに もしやもしやに
ひかされて…

母の切実な心情が歌われ心を打たれます。誰一人、こんな思いをすることもさせることも決してあってはならないのだと改めて考えさせられました。



親鸞聖人

御誕生850年
立教開宗800年
についての消息

本年は親鸞聖人の御誕生850年、浄土真宗が開かれて800年の記念すべき年です。本願寺ではご縁を慶び「慶讃法要」を営みます。この記念の法要を迎えるにあたり出されたご門主さまのお言葉をご紹介します。



来る2023年には、宗祖親鸞聖人のご誕生850年、また、その翌年には立教開宗800年にあたる記念すべき年をお迎えするにあたり、2023年に慶讃法要をお勤めいたします。

親鸞聖人は承安3年・1173年にご誕生となり、御年9歳で出家得度され、比叡山で修行を重ねられましたが、29歳の折、山を下りて法然聖人の御弟子となられ、阿弥陀如来の本願念仏の世界に入られました。その後、専修念仏停止によって越後にご流罪になられ、赦免の後は関東に赴かれて他力念仏のみ教えを人々に伝えられるとともに、『教行信証』の執筆にとりかかられました。他力念仏のみ教えがまとめられた本書は、浄土真宗の根本聖典という意味でご本典と呼ばれています。そして、そのご本典の記述によって、その成立を親鸞聖人52歳の時、すなわち元仁元年・1224年とみて、この年を立教開宗の年と定めています。

仏教は今から約2500年前、釈尊が縁起や諸行無常・諸法無我というこの世界のありのままの真実をさとられたことに始まります。翻って私たちは、この執われのないおさとの真実に気づくことができず、常に自分中心の心で物事を見て、悩み、悲しみ、あるいは他人と争ったりしています。釈尊は、このような私たちをそのままに救い、おさとの真実へ導こうと願われたのが阿弥陀如来であることを教えてくださいました。そして、親鸞聖人は、この阿弥陀如来の願いが、南無阿弥陀仏のお念仏となつてはたらく続けてくださっていることを明らかにされたのです。ありのままの真実に基づく阿弥陀如来のお慈悲でありますから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、自己中心的な考え方ができない煩悩具足の私たちも決して見捨てられることはありません。その広大なお慈悲を思うとき、親鸞聖人が「恥づべし傷むべし」とおっしゃったように、阿弥陀如来のお心とあまりにもかけ離れた私たちの生活を深く慚愧せざるをえません。

しかし、この慚愧の思いは、阿弥陀如来の悲しみを少しでも軽くすることができればという方向に私たちを動かすでしょう。それは、阿弥陀如来の願いを一人でも多くの人に伝え、他人の喜び悲しみを自らの喜び悲しみとするような如来のお心にかなう生き方であり、また、世の安穩、仏法弘通を願われた親鸞聖人のお心に沿う生活です。み教えに生かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現に向け、宗門総合振興計画の取り組みを進めながら、来るべき親鸞聖人ご誕生850年ならびに立教開宗800年の慶讃法要をともにお迎えいたしましょう。

2019(平成31)年1月9日 浄土真宗本願寺派門主 釋 專如

慶讃法要
開催期日

令和5(2023)年

【第1期】3/29～4/3 【第2期】4/10～4/15 【第3期】4/24～4/29
【第4期】5/6～5/11 【第5期】5/16～5/21 各6日間

※ 天真寺からの団体参拝の予定はありませんのでご了承ください。法要に参加するには事前の申込が必要となりますので、ご希望の方はお寺までお尋ねください。

